

「薄いんだけど柔らかい」金井式縫着畳で、笑顔のリビング・お茶の間を

現代日本の住空間にも適した「薄いけど柔らかい」金井式縫着工法『畳』は、技術的課題があり、お客様のニーズを満たすことができていなかった。職人の知恵と工夫と、専用機器導入で課題を克服した。

株式会社金井畳店

受付番号: 2813110012

代表者名 代表取締役 金井功
所在地 〒111-0053 東京都台東区浅草橋2-28-3
実施場所 〒111-0053 東京都台東区浅草橋2-13-9
連絡先 03-3851-3802

資本金 1,000万円
従業員 2人
URL <http://www.tatamiya-kanai.com>

取組みの背景

当社では一般的な畳の他に、へりなし畳、置き畳、カラー畳、寺社仏閣向けの有職畳等、様々な畳の製作を行う。また、製作だけでなく、畳表を張り替える表替え、裏返しから、移設に伴うリニューアルなどの畳工事一式を請け負っている。近年では、当社のホームページや口コミでの紹介を通じて近隣住民や介護施設、学校施設からの引き合いも増加している。

しかし、昔ながらの縁側のある日本家屋が減り、新築の一戸建でも和室がオプションとなる等、全体の趨勢として、畳の需要量は年々減少傾向にある。

一方、子育て世代の親には、転んでも痛くなく、一緒に並んで寝転ぶことができる身体に優しい畳の上で子どもを育てたいというニーズも根強く残っており、洋間に畳を敷く要望も当社には多く寄せられている。

こうしたニーズから、近年は置き畳の受注が増加し、畳のサイズも、本来の畳を設置すると床に段差ができてしまうために、より薄く、洋間に合わせた半畳といったフリーサイズへの要求が高まっている。

取組みの内容

このようにニーズが多様化するなかで、従来の設備では、最も薄くても縫いあげられる厚さは30mm以上であった。また、畳の芯となる畳床の裁断と、縫い上げるまでの時間がかかり、受注を断ることもあった。

市販の畳には、接着剤を使い、フリーサイズへの対応を行っているものもあるが、接着剤がハウスアレルギー等の原因となることもあり、自然素材の畳のよさが損なわれる可能性もあるため、当社では職人の手作りによる縫着工法にこだわっている。

薄くても柔らかい畳を実現するためには、芯材である畳床にも柔らかい素材を用いるが、針を通す段階で破損が



東海機器工業株式会社製エア式/框裁断機付框縫機
『東海ホープTA2』



東海機器工業株式会社製自動クセ取装置付き両用縫着機
『東海マイコンスーパーリード6型』

企業紹介

明治44年創業の下町の老舗畳店である。社長の金井功氏は四代目で、伝統を継承する職人として畳製作一級技能士資格を保有する他、職業訓練指導員として後進の育成にも携わる。

昔ながらの職人技が必要な縫着工法の畳製作にこだわり、畳専門店ならではの畳を届け、長く愛用してもらうことから、畳文化を将来に継承することが使命であると考えている。



代表取締役 金井功氏

起きる危険性もある。また、柔らかい床材を切断する場合に、切断における寸法精度を出すのは難しい。

こうした課題を解決するために、今回、厚さ20mm以下を実現でき、設定をはじめ縫着作業全体の効率化を図ることができる新設備を導入した。これは、アタッチメントで縫い針の交換が可能のため、通常の縫い針ではなく、より細い縫い針を装着することができるため、床材への負担を減らすことが可能となった。

取組みの成果



(上段・下段左) 厚さ19mmの置き畳、(下段右) 標準的な畳。
標準の厚さは55～60mm

新設備によって、厚さ13mm (13～16mm) までの薄畳を針で縫うことができるようになった他、切断刃の切断角度を0度から13度まで調整できるため、素材に応じた最適な角度での床材の切断が可能となった。

しかし素材ごとの最適な加工方法は、やはり職人の経験に負うところが大きく、試行錯誤を繰り返しながら、美しい仕上がりが可能となった。

こうして当社が実現した厚さ19mmの置き畳は、畳床に柔らかくて耐久性があり、吸水性・通気性に優れた天然繊維ケナフボードを用いることによって、畳特有のクッションを実現した新しいタイプの畳である(実用新案取得済)。

補助事業終了後の取組み

使用する部屋に合わせた採寸、畳表やヘリの柄を選べる等、用途に合わせたオーダーメイドに応えるための技術面での準備は整った。そこで、これからは生活の様々なシーンで畳を活かしてもらうべく提案を行っていく準備をしているところである。

例えば、宿泊施設や介護施設・教育施設での畳の活かし方、また会社の休憩室での活用等について、利用者の意見も取り入れながら、畳が活躍できる場を増やしていく。

材料のイグサは天然の消臭剤ともなり、湿気を取り込み逃すという呼吸も行うので、畳自体が空気清浄機のような働きも果たすことができる。こうした特性を、日本人のみならず外国人にも知ってもらい、日本特有の敷物文化を守っていきたいとしている。